

第28回 日本木材学会地域学術振興賞（2019年度）

「森林バイオマス利用の研究による四国地域の学術振興への貢献」

氏名（所属）：大谷 慶人（高知大学農林海洋科学部農林資源環境科学科）

この度は、日本木材学会地域学術振興賞という名誉ある賞をいただき、光栄に存じます。ご推薦またはご選考に当たられた先生方には深く感謝申し上げます。

私は大学院時代の1978年に日本木材学会に入会して、現在まで42年間会員を続けています。大学・大学院修了後、1982年から1993年まで㈱日本紙パルプ研究所に、1993年から現在まで高知大学農林海洋科学部に所属して、紙パルプに関する研究および林産物利用に関する研究を行いました。

紙パルプ研究を長年続けたことから、紙パルプ産業が盛んな四国地域において、NPO 法人機能紙研究会、四国紙パルプ研究協議会の活動に中心的に関わってきました。紙パルプ産業の振興のために、同業種・異業種交流の促進、先端技術の紹介、新技術関連の書物の出版などを行いました。

個人的な研究に関しては、高知大学在職中に多くの卒論生、修士学生、博士課程学生とともに、紙パルプ以外にも幅広い林産物の研究を行いました。その中で中心的な研究は地域の要望に基づいて始めたものが多く、樹木の抽出成分、特に樹木精油の利用、シイタケ菌種の改良などが長く続けた研究項目となります。

高知県の人工林面積はヒノキ林がスギ林より大きく、ヒノキ精油の利用に対する要望は大きいものがあります。ヒノキの精油は芳香剤としての利用のみならず、その機能の多様さのために、多くの可能性が考えられ、我々は、それらを活かしたヒノキ精油の用途開発を長年行ってきました。廃発泡スチロールの回収利用、シロアリ防除用素材、ディーゼル排ガスの大気汚染物質低減など、従来とは異なる視点で研究を進めました。更に、用途開発のかたわら、ヒノキ精油の化学的性状についても、ヒノキの個体差、精油採取法による成分組成の違い、抗酸化能力、抗菌能力などを詳細に明らかにしてきました。一方、樹木精油についてはヒノキ精油以外にもユーカリ精油、メラルーカ精油、スギ精油などの多くのものを対象に研究を行いました。

キノコ研究については、地元の要望とともに学生からの強い希望により始めました。高知県は夏場の高温のために、シイタケ菌床の路地栽培には不適で、その改良のために、高温適性の菌の選抜を進めました。更に、菌床培地の組成により、シイタケの有用成分の濃度向上を試み、一定の効果を得ました。一方、研究室に入ってくる学生の中にはキノコに興味を持つものが一定数います。彼らのキノコに対する好奇心は強く、彼らの斬新な発想をもとにできる範囲での様々な研究を手がけました。それらは学生のためというより、私個人の知識の取得や学生教育のためにとっても有用であったと感じており、学生には大変感謝しています。

今回の受賞は私の活動が地域の森林資源の活用促進に貢献できたと考えて頂いたことと、それに対するご褒美だと思っております。心よりお礼を申し上げます。